

定期作況報告

(平成 21 年 8 月 20 日現在)
北海道立上川農業試験場天北支場

I 気象概況

7月下旬から8月中旬までの気象は以下のように推移した。

7月下旬：平均最高気温が 16.5℃（対平年比 -5.0℃、以下同じ）、平均最低気温が 11.9℃（-2.9℃）と平年より低かったため、平均気温は 13.9℃（-4.1℃）と平年より低かった。降水量は 70.5mm（99%）と平年並であった。日照時間は 22.0 時間（65%）と平年よりやや短かった。畑地温は 12.9℃（-3.4℃）と平年より低かった。

8月上旬：平均気温は 17.7℃（-2.6℃）と平年より低かった。降水量は 10.5mm（27%）と平年より少なく、日照時間は 71.4 時間（178%）と平年より長かった。畑地温は 15.6℃（-2.2℃）と平年より低かった。

8月中旬：平均最高気温が 20.5℃（-3.0℃）と平年より低かったため、平均気温は 17.6℃（-2.0℃）と平年より低かった。降水量は 14.5mm（42%）と平年より少なく、日照時間は 25.5 時間（61%）と平年よりやや短かった。畑地温は 16.4℃（-1.9℃）と平年より低かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の 3 旬の平均は 16.3℃（-3.0℃）と平年より低かった。降水量の 3 旬の合計は 95.5mm（66%）と平年よりやや少なかった。日照時間の 3 旬合計は 118.9 時間（103%）と平年並であった。畑地温は 14.9℃（-2.5℃）と平年より低かった。

4 月からの主気象要素の積算値は、平均気温、降水量、日照時間、畑地温はいずれも平年並に推移している。

a. 気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			3 旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温 (°C)	13.9	18.0	△ 4.1	17.7	20.3	△ 2.6	17.6	19.6	△ 2.0	16.3	19.3	△ 3.0
平均最高気温 (°C)	16.5	21.5	△ 5.0	21.7	23.6	△ 1.9	20.5	23.5	△ 3.0	19.5	22.8	△ 3.3
平均最低気温 (°C)	11.9	14.8	△ 2.9	14.8	17.4	△ 2.6	15.8	15.7	0.1	14.1	15.9	△ 1.8
降水量 (mm)	70.5	71.2	△ 0.7	10.5	38.3	△ 27.8	14.5	34.9	△ 20.4	95.5	144.4	△ 48.9
降水日数 (日)	7	5	2	3	4	△ 1	4	3	1	14	12	2
日照時間 (hrs)	22.0	33.9	△ 11.9	71.4	40.1	31.3	25.5	41.8	△ 16.3	118.9	115.8	3.1
平均畑地温 (10cm, °C)	12.9	16.3	△ 3.4	15.6	17.8	△ 2.2	16.4	18.3	△ 1.9	14.9	17.4	△ 2.5
最多風向	3.2			2.2			2.8					
平均風速 (m/s)	E			E			E					

注 1) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2) 平年値は前 10 年間の平均より上川農試天北支場作成。

3) 降水量、降水日数、日照時間の 3 旬平均欄は 3 旬の合計値。

4) △印は対平年値比減を示す。

b. 主気象要素積算値（4 月 21 日～ 8 月 20 日）

	平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hrs)	畑地温 (°C)
本年	1,527	396	555	1,281
平年	1,641	387	575	1,451
比較	△ 114	9	△ 20	△ 170

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（2 番草）

作況：不良

事由：7月中旬から8月上旬にかけて気温が平年より低く推移したため、2番草の生育が遅れ、草丈は平年より10cm短く、乾物収量は平年の75%にとどまった。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

収 穫 期（月・日）			収 穫 時 草 丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較
8.14	8.16	△ 2	61	71	△ 10

注）平年値は前7年のうち、平成14年（最凶年）及び平成20年（最豊年）を除いた5年平均値。

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1,062	1,243	△ 181	19.1	21.5	△ 2.4	203	271	△ 68	75 %

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（4 番草）

作況：平年並

事由：7月下旬以降の気温が平年より低く推移したが、生育には影響はなく、乾物収量は平年比101%であった。

以上より、目下の作況は平年並である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
42	36	6

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1,013	914	99	17.6	19.3	△ 1.7	178	176	2	101 %

注）平年値は前7年のうち、平成18年（最豊年）及び平成19年（最凶年）を除いた5年平均値。